

今でも君は

時が流れて 景色も変わり
歩く道は 別々のままに
ふれられない距離になっても
言葉を交わせなくても

心の奥 心のどこかで君は
確かに息づいている
時折思い出すこともあって
忘れられないものがある

まるで静かな 風のように
思い出にふれている時
胸の奥にそっと吹き抜けて
揺らぎを残していく

それはきっと気持ちの中で
大切にしていた証
今でも君は僕の片隅で
静かに、やわらかく、光っている

心の奥 心のどこかで君は
確かに息づいている
時折思い出すこともあって
忘れられないものがある